

インフォメーション

日本蜘蛛学会第50回 大会（2018年度）の ご案内

日程：2018年8月25日（土）・26日（日）

役員会は24日（金）の午後開催

8月25日（土）

一般講演，シンポジウム，ポスター発表，
総会，懇親会

8月26日（日）

一般講演
午後に市民向けの公開シンポジウムを計画
中です。

会場：広島大学東千田キャンパス

広島市中区東千田町1-1-8

[https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/](https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/senda)
[senda](https://www.hiroshima-u.ac.jp/access/senda)

問い合わせ先

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9-1

一般財団法人 広島県環境保健協会

井原 庸 yoh.ihara@kanhokyo.or.jp

申し込み等の詳細は，あらためてお知らせ
します。多数の参加をお待ちしております。

なお，**広島市内のホテルの混雑が発生して
いますので，できるだけ早い時期の宿の予約
をお願いいたします。**

会長就任のごあいさつ

田中幸一

昨年（2017年）のクリスマス・イブに，選挙管理委員会からメールが入りました。「日本蜘蛛学会の次期会長に，貴殿が選出されました」という。全く予想していなかったため，個人的には，昨年最大のサプライズでした。

さて，当学会を振り返り，特に歴代会長をみると，私は，クモヤクモの名前を最も知らない会長であることが分かります。これで会長が務まるのか，と思われるかもしれませんが，立候補したわけではないし，会員の皆さんに教わりながらやっていきたいと思います。私は，十数年前に庶務幹事を務めました，その頃と比べると当学会は様変わりしてきたことを感じます。当時の事務処理は，まだ文書（紙ベース）で行い郵便でやりとりするものが多かったのですが，電子化・合理化されて，手間が省けるようになりました。会員数は，減少傾向が続いていましたが，ここ数年は横ばい状態で落ち着いています。そして近年特に感じることは，大会が盛会であることです。参加者数も多く，会員数に占める参加者数の多いことは，数ある学会の中でもトップクラスではないかと思えます（統計をとったわけではありませんが）。若手の発表も多く，活気を感じると

もに、将来に希望がもてます。これらのことは、特にここ何代かの会長や幹事の皆さんのご尽力によるところ大であります。

しかし、楽観視してばかりはいられません。ご存知のように、わが国は、人口減少・少子高齢化という問題に直面しており、しかもこれまで世界が経験したことがない速度で進行することが確実となっています。マスコミなどからは「2025年問題」という言葉を耳にします。これは、いわゆる団塊の世代が75歳を超える時期を指しており、たとえば2024年には、人口の3分の1が65歳以上になると予想されています（私も任期中に65歳を迎えますが）。この問題は、学会にとっても、会員数の減少につながる恐れのある重大問題です。しかし、人口減少や高齢化が、そのまま会員数の減少につながるわけではありません。というのは、当学会の会員数は、人口の内のほんのわずかの割合であり、人口が減っても、その割合が上がれば会員が増加するためです。そのためには、いかに新入会員を増やすか取り組んでいく必要があります。

その点で、追い風になる可能性があることとして、近年クモに関して注目されている二つのことがあります。ひとつは、クモ糸を応用した繊維の開発です。これに関しては、大会のシンポジウムのテーマとなったり、また一般講演で発表されたりしたため、皆さんもご存知のことと思います。強靱さと弾力性を合わせもつというクモ糸の特性を活かした素材として注目され、今後幅広い用途に活用されることが期待されています。クモ糸に限らず、生物や生物の作るものなどを模倣したバイオミメティクスは、産業界をはじめとして様々な分野で開発が進んでいます。当学会も所属する日本昆虫科学連

合のシンポジウムのテーマとして、昨年と今年2年連続でとりあげられ（タイトルは「昆虫の恵み」）、今年は当学会から荒川和晴さんが講演されます。クモ糸が注目され利用されることによって、クモが一般の方により知られるようになったり、小中学校の自由研究や高等学校の部活動研究の題材になったりなどの効果が期待されます。また、この分野の研究者が入会されて会員層の幅が広がったという恩恵も受けています。

もうひとつクモが注目されていることは、環境指標とくに農地における環境指標として適している点です。私が関係した農林水産省のプロジェクト研究によって、有機農業など化学農薬や化学肥料を使用しない、あるいは使用を減らした環境保全型農業（環境にやさしい農業）を行うと増える生物、すなわちそのような農業の効果を表す指標生物が選ばれました。その中で、クモ類は重要な指標生物となりました。それまで、国や都道府県の農業試験研究機関の害虫研究者は、クモ類が害虫の天敵として知られているにもかかわらず、不思議なほどクモには馴染みがないようでした。しかし、これがきっかけとなって、クモを知るようになり、一部には入会された方もいます。指標生物は、農水省の農業施策の効果検証に使われており、さらに農家のグループが生き物調査をして、ブランド米の宣伝に利用するなど、活用が広まっています。また、自治体の委託によって、アセス会社が調査するような例も現れています。このように、クモを調査する需要が増えることが、若手のクモ研究者の就職先や新たな会員の入会につながれば良いと思っています。

今年の大会は、記念すべき第50回大会として、8月25、26日に広島市で開催されます。例

年通りのシンポジウムの他に、公開シンポジウムも企画されています。多くの会員の皆さんに参加していただき、大会を大いに盛り上げてください。前述しましたように、大会への参加者が多いということは、会員の皆さんが大会を楽しみにしている表れであり、参加したくなるような大会にすることが、当学会の今後の発展にとって重要課題のひとつであります。当学会は、クモ目やクモガタ類などの研究を職業とする研究者だけでなく、多様な会員から成り立っています。また、高齢化が進んでいる一方で、徐々に若手の会員も増えてきています。このような多様な会員にとって魅力のある学会にすることが第一ですが、これは簡単なことではありません。現代は、生物多様性がキーワードの一つであり、多様であることの重要性が見直されている時代と言えるでしょう。多様なクモの研究や多様なクモとの関わり方によって、魅力ある学会になることを期待するとともに、微力ながらそのお役に立てればと思っています。会員の皆さん、どうぞよろしく願いいたします。



同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期刊行物の内容、採集会や講演会（総会・例会）の日程などを紹介します。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加されてはいかがでしょうか。

三重クモ談話会（会長：橋本理市）

会報「しのびぐも」を年1回発行。採集会・合宿・例会などを年数回実施。

しのびぐも 45号（作成中）

採集会

本年は北勢地区の里山で実施。いずれも神崎地

区市民センター駐車場に午前10時集合

2018年6月10日（日）、9月9日（日）、

11月18日（日）

中部蜘蛛懇談会との合同合宿

2018年7月28日（土）・29日（日）

鳥羽市答志島で実施

総会・反省会 2019年2月16日（土）松阪

市日野町カリヨンプラザ

詳しくは会のホームページをご参照ください。

<http://miekumo.web.fc2.com/>

参加希望者は事務局（貝發）まで連絡してください。

入会申し込み

〒515-0087 三重県松阪市萌木町7-4

貝發憲治（事務局）

Tel (Fax) 0598-29-6427

mail : kumo@mctv.ne.jp

会費 年2000円

中部蜘蛛懇談会（代表：緒方清人）

会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3回発行。採集会を年2～4回。総会・研究会を年1回実施。

蜘蛛（KUMO）50号（2018年1月発行）

緒方清人：中部懇談会会誌『蜘蛛』50号に歴史の重みを感じる

田中幸一：私とクモ：思い出に残るクモ

貞元己良：石川県の加藤さん
加藤修朗：まだまだ続くイライラの日々
筒井明子：ハリーポッターの大グモ“アラゴグ”
に出会った旅

赤星大和：大すきなクモたち
石田 才：ぼくがみつけてうれしかった蜘蛛
佐藤英治：初めてのクモ観察会
杉山時雄：『蜘蛛』50号発刊おめでとうございます

緒方清人：愛知県産クモ目録 追加種 (IX)
益田和昌：三重県産のダテアマビコヤスデにつ
いて

採集観察会

2018年5月27日(日) 犬山市善師野
名鉄善師野駅前午前10時集合

2018年6月16日(土) トヨタの森
トヨタの森フォレストヒルズP5駐車場午前
10時集合

2018年10月7日(日) 名古屋市大高緑地公
園

その他に、8月名古屋市内で子供観察会、9月
安城市大山町で予定されています。

三重クモ談話会との合同合宿

2018年7月28日(土)～29日(日) 鳥羽市
答志島で実施

総会・研究会は2019年2月11日(日、祝)
ウィルあいちにて開催

入会申し込み他

全般について

〒472-0022 知立市山屋敷町東山10-6

緒方清人(代表)

Tel 0566-83-4474

E-mail: neon_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など

〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1
名古屋市立大学 気付 片山詔久(会計)

Tel 052-872-5853

nory@nsc.nagoya-cu.ac.jp

会費

正会員 年3000円(高校生以下1000円)

準会員 「まどい」のみ1000円

東京蜘蛛談話会(会長：新海栄一)

会報「KISHIDAIA」を年2回、「談話会通信」
を年3回発行。採集会年4回・合宿年1回・
総会例会などを年2回実施。

今年度の採集会は、国立市のママ下湧水・多摩
川河川敷で行います。

2018年5月13日(日)、7月8日(日)、10
月14日(日)、2019年2月10日(日)
南武線 矢川駅北口下のロータリー午前10
時集合

世話人：初芝伸吾 090-6156-8378

甲野 涼 090-9370-4950

合宿

2018年7月20日(金)から22日(日)

群馬県渋川市伊香保町伊香保周辺で実施

世話人：新海 明・林 俊夫・谷川明男

例会

11月下旬ないし12月上旬

KISHIDAIA 112号(2018年2月発行)

笹岡文雄：冬期におけるジョウロウグモの一観
察

新海 明：中平清先生遺稿「土佐のクモ」(4)
チュウガタシロカネグモの卵のうの観察

井上尚武：茨城県のイソコモリグモ(3)北茨城
市で新産地を発見

DRAG LINES

馬場友希・藤本博文：徳島県で採集された四国
初記録のカワラメキリグモ

笹岡文雄：富山県高岡市の地中性クモ類

長野宏紀：伊是名島からのヤンバルキムラグモ
の記録

長野宏紀・金子直樹：伊平屋および久米島から
のキノボリトタテグモの記録

笹岡文雄：福岡県北九州市におけるクモ小記録

芹田凌平：香川県で採集したクモ

芹田凌平：カムイハシリグモの変異型を発見

鈴木佑弥：野外におけるケアシハエトリの捕食
失敗例

鈴木佑弥：カンムリグモの幼体保持行動

鈴木佑弥：野外におけるサダモトヒメグモの採
餌例

鈴木佑弥：茨城県城里町で採集されたクモ

鈴木佑弥：茨城県つくば市の水田周辺で採集さ
れたクモ

鈴木佑弥：茨城県桜川市で採集されたクモ

鈴木佑弥：静岡県下田市で採集されたクモ

鈴木佑弥：茨城県におけるスズミグモの記録

嶋田順一：カトウツケオグモの観察

嶋田順一：コガタコガネグモは音に対して本当
に敏感か

市川武明：CD 日本のクモ ver. 2016 未記載
の記録

笹岡文雄：住宅地、室内で採集されたコシロカ
ネグモ

芹田凌平：高知県で採集したクモ

菅波洋平：栃木県の土壌から採集されたクモ類
(II)

鈴木佑弥：茨城県つくば市小田で採集されたク
モ I

鈴木佑弥：茨城県つくば市小田で採集されたク

モ II

鈴木佑弥：長野県北安曇郡白馬村および大町市
で採集されたクモ

鈴木佑弥：菅平高原および峰の原高原で採集さ
れたクモ

鈴木佑弥・須黒達巳：新潟県で採集されたクモ
入会申し込み

〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8

コンフィデンス高垣 105 (有) エコシス

初芝伸吾 (事務局)

Tel 042-501-2651

E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

会費 年 2000 円 (学生 1000 円)

2015 年度より値下げしました。

関西クモ研究会 (会長：田中穂積)

会報「くものいと」を年 2 回発行。採集会・研
究会例会などを年数回実施。

くものいと 51 号 (2018 年 3 月発行)

関根幹夫：和歌山県におけるクロガケジグモの
分布

関根幹夫：マレーシアのクモ相撲

福田孝男：滋賀県大津市でキジロオヒキグモ

関根幹夫：和歌山県におけるナカヒラハエトリ
の初記録

桂孝次朗・奥野晴三：大阪都心の鞆公園のジグ
モとワスレナグモ -この 26 年間の変遷-

藤野義人：ヒトエグモの生息分布調査 2

船曳和代：クモの卵囊の中にいた毛虫

黒田あき：セアカゴケグモの駆除を楽しくしよう

黒田あき：「山門水源の森 現地交流会」感想

黒田あき：箕面公園滝道採集記録

黒田あき：大阪南港中央公園採集記録

黒田あき・黒田 誠：ハツリグモの住居について

黒田あき：クモの飼育方法
吉田 真：滋賀・京都のクモ類（2012）
清水裕行：阪神地方の冬のクモ
伊藤 博：滋賀県山門水源の森におけるトラフ
ワシグモの採集記録

採集会

2018年5月27日枚岡公園

近鉄奈良線舞岡駅難波方面改札口10時集合

合宿

2018年9月8日（土）から9日（日）

福井県大野市で実施

例会

2018年12月16日（日）

大阪市立自然史博物館1階集会所で開催

入会申し込み

〒569-0087

高槻市千代田町 1-1-527

加村隆英 方

電子メール：kamura@haruka.otemon.ac.jp

会費 年1000円

東京クモゼミ

毎月1回、第1土曜日に千葉縣市川市の加藤宅で開催。会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 新海 明 042-679-3728

または、加藤輝代子 047-373-3344

開催日は <https://dp7a-tnkw.wixsite.com/kumosemi> に掲示しています。

関西クモゼミ

会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 吉田 真 077-561-2660

メーリングリスト「クモネット」

会費などなく誰でも参加できる。入会の申し込みは e-mail で馬場友希まで。

ybaba@affrc.go.jp

言いたい！聞きたい！



クモ切手の風景

11

笹岡文雄

切手は四角が使いやすい。そして20枚なり、50枚なりを1シートで印刷しないとコスト的にも見合いません。そのためにも長方形か正方形が合理的。1840年始めて郵便切手が発行されて以来の大原則でもあります。

ところがその後の記念切手の中には、多くの変形物が存在します。使用することよりコレクション性を重視した、いわば販売戦略の一環です。

この切手はフランス領南方・南極地域（TAAF）名義で2018.1.2発行、同地域生息の生物シリーズの内の1枚です。TAAFとは、南極大陸アデリーランドとアフリカ大陸との間にある小島嶼群のことです。これらは研究者と軍人以外ほとんど人間さえない地域です。そんなところで切手発行？ 当然印刷も販売もできるわけもなく、全てフランス本国で行わ



れています。本国発行なら本来「Republique Française」か「France」と国名が入っています。にもかかわらず表記は「TAAF」。実はこのシリーズ切手、フランスが南極大陸を始めとした同地域の領有権を確保しておきたいために、多分に政治的意味合いを含んだものです。

普段気にせず使っている切手は、その国の主権を表す重要な証書でもあることを知らせてくれる事例でもあります。描かれたクモは同地域にあるクローゼー(Crozet)諸島産、「*Myrojeanneil*」ウシオグモ科の一種ですが、僻地産のクモのせいかな、ちょっと調べた程度では詳しい生態など見つかりませんでした。クローゼー諸島にクモ学者がいるのかどうか、標本が本国へ送られそこで記載されたというところでしょうか。ちなみに日本では同じ属のウシオグモ科の記載は、今のところありません。

採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限らせていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず现阶段では、投稿があれば参考記録とし

て掲載を継続させていただきます。しかし、幼体での記録は誤同定の危険が大きいですので、可能な限り避けてください。】

マルコブオニグモ 埼玉県秩父市大滝 川又学生宿舎 2015年6月13日 1♀ 碓井徹採集、谷川明男同定

シラホシコゲチャハエトリ 埼玉県川越市寺山 入間川河川敷 2016年3月27日 1♂ 平松毅久採集同定

カムイハシリグモ 北海道網走郡美幌町美禽 2017年9月25日 2y(飼育後1♀) 外山太一郎採集、納谷典明同定

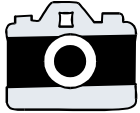
カコウコモリグモ 東京都大田区東六郷 2018年1月7日 3♂2♀(飼育し、1/26から31にかけて脱皮) 市川武明・須黒達巳採集同定



カコウコモリグモ 撮影：須黒達巳

ヨシシャコグモ 茨城県小美玉市先後八幡池 2018年3月31日 2y(飼育にてメス亜成体とオスを確認) 藤又賢司採集、納谷典明同定 (メス亜成体) 納谷典明 採集同定 (オス)

(新海 明・谷川明男集約)



ギャラリー



『うっ!』

タイ南部で見つけたハラフシグモ類の戸蓋。そのあまりの大きさに感動。蓋の幅は約75mm。「これで最大かな？」案内してくれたタマサト大学のボッパアさんや保護区のレンジャーの人に聞くと、「もっと大きいのがいる」とのことだった。夜、穴の入り口に出てきていた巣の主を同行の鈴木佑弥くんが捕獲してくれた。クモはまっ黒で、体長は約35mm。ちょっと腹部が小さくなっていたので、ちゃんと食べれば40mmくらいにはなるだろう。体長40mmといえば、中くらいのタランチュラと同じ大きさだ。

撮影・コメント：谷川明男

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男) まで

遊絲の発行は、年2回(5月、11月)の予定。
投稿締切は発行月の前月末日(4月末と10月末)です。

日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

Atypus 閲覧のパスワードは

入退会は

庶務幹事

高須賀圭三

〒997-0052 山形県鶴岡市覚岸寺字水上 246-2

慶應義塾大学 先端生命科学研究所

E-mail: keizaf@gmail.com

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

加藤輝代子

〒272-0827 千葉県市川市国府台 5-26-16-206

E-mail : kiyoko_kato@tce.ac.jp

年会費 正会員 7000円 (学生は5000円)

郵便振替口座 00970-3-46745

日本蜘蛛学会

遊絲 第42号

2018年5月23日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 田中幸一
